

《CT造影用》

非イオン性ヨード造影剤の血管内注射に関する インフォームドコンセント(説明書)

《副作用の程度と頻度について》

非イオン性ヨード造影剤は安全なお薬ですが、以下のような副作用が起こることがあります。

副作用の程度	発生頻度	
	日本1) 168,363症例中	とりで医療センター2) 68,687症例中
軽度(吐き気や嘔吐、蕁麻疹、クシャミ、血管痛など)	6,753例(4%)	418例(0.6%)
重篤(呼吸困難、血圧低下、意識消失など)	70例(0.04%)	8例(0.01%)
死亡	1例(0.0006%)	0例(0%)

1)Katayama H et al.:Radiology 1990;175:621-628

2)1998年4月～2013年3月

また、造影剤で具合が悪くなったことのある方、アレルギー体質の方、喘息と診断されたことのある方、腎臓の機能が悪い方、甲状腺機能亢進症と診断された方、褐色細胞腫と診断あるいは疑いがあるとされた方、ビッグアナイド系の経口糖尿病薬を服用されている方(検査前2日間・検査当日・検査後2日間の計5日間の休薬が必要になります)などは、副作用を生じる可能性が高くなることが知られています。

《副作用が発生した場合について》

副作用が発生してしまった場合には、適切な処置を行います。当院の医師、看護師、放射線技師は副作用発生時の対処法について訓練を受けております。極めて稀ですが、重篤な副作用の場合には院内の医療スタッフを総動員する緊急時システムが確立されています。また、検査後数時間～1週間ほどたってから副作用が生じることもあります(遅発性副作用)。もし、帰宅後などに具合が悪くなった場合には、すぐに下記までご連絡下さい。

連絡先:JAとりで総合医療センター 電話 0297-74-5551

平日 8:30～17:00、第1・3土曜の8:30～12:30 放射線部受付内線1246

上記以外の曜日や時間帯 救急部 内線1208

《費用について》

費用は総額で40,000円前後、保険診療上、負担額はこの金額の1～3割となります。検査内容によっては多少上下します。